



紫風

特集 全国学力・学習状況調査結果より

【保護者のみなさまへ】

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果が発表されました。学力調査に係る本校結果は裏面に掲載しました。学力向上は学校の大切な役割ですので、今回の結果を受けて、ふだんの授業のあり方について見直していきたいと思ひます。

ここではまず、学力検査と併せて行われた生徒質問紙調査の結果についてみていこうと思ひます。

特集1 「非認知能力」について考える—生徒質問紙結果より—

最近、「非認知能力」という言葉がよく使われるようになりました。IQや学力テストの結果のように、数値で表すことができる「認知能力」に対して、「非認知能力」は数値で表すことが難しい能力を指します。具体的には、「やり抜く力、目標に向かって頑張る力、自制心、自律性、自己肯定感、コミュニケーション能力、協調性、共感する力、思いやり、規範意識」など幅広い能力です。これらが、子どもたちの将来の豊かな人生や生活につながるということが注目されています。

全国学力・学習状況調査では、「生徒質問紙調査」として、子どもたちの学習意欲、学習習慣、生活習慣、意識の実態などを、アンケート方式で生徒が回答する調査が行われています。その中から、上述した「非認知能力」に関わると思われる項目の本校生徒の回答結果を抜き出したものが下の表になります。

	本校	全国	全国比
自分にはよいところがあると思ひますか	28.9	36.1	▲7.2
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思ひますか	40.1	39.7	0.4
将来の夢や目標を持っていますか	49.7	39.9	9.8
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	32.0	36.7	▲4.7
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	12.7	21.4	▲8.7
人が困っているときは、進んで助けていますか	32.0	40.5	▲8.5
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思ひますか	83.2	82.4	0.8
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	35.5	32.5	3.0
人の役に立つ人間になりたいと思ひますか	67.0	73.5	▲6.5
学校に行くのは楽しいと思ひますか	43.1	46.0	▲2.9
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思ひますか	27.4	31.6	▲4.2
友達と協力するのは楽しいと思ひますか	69.0	66.2	2.8

*令和4年4月調査実施。調査対象は第3学年

考えてみれば、学校で習った学習内容は、学校を卒業し年齢を重ねることに忘れていくものですが、「非認知能力」として上に挙げた能力は、いわば、それぞれの「心の土台」になって、将来生きて働くことは納得できる場所です。

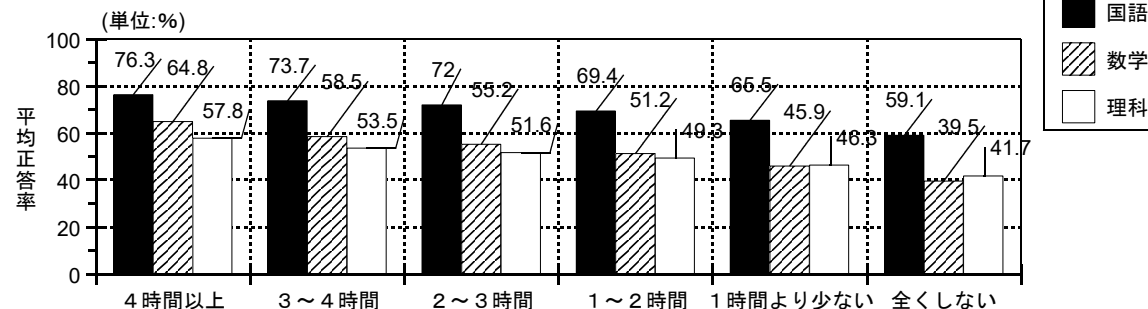
コロナ禍の中で、対面で学ぶことを極力控えてきた学校生活ですが、様々な人が「学校に集（つど）って学ぶ」という、いわば学校の意義に、これら「非認知能力」はつながっていると捉え、これからは教育活動を進めたいと思ひます。各家庭では、ただでさえ難しい思春期の時期の子育てですが、将来子どもたちの「心の土台」として生きて働くこれらの力を意識しながら、子どもたちへの働きかけをお願いします。

特集2 学力と高い相関関係にあるもの

「生徒質問紙」に関する全国結果から、学力検査結果と高い相関関係にあるとされた項目と本校結果を抜き出してみました。

家庭学習時間の確保は必要！

土日など休みの日の勉強する時間



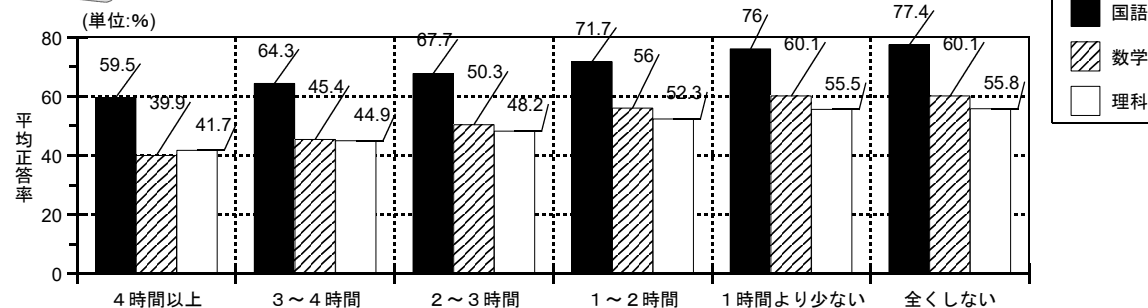
家庭学習の時間をきちんと確保できている子どもほど、高い正答率を示している上のグラフは、ある意味当然のことといえます。

★「3時間以上勉強する割合」：本校は17.8% [全国は20.6%・2.8ポイント低]



メディア漬けは禁物！

平日1日当たりテレビゲームの時間 (PC・携帯型・スマホ等のゲーム含む)



過度のメディア利用は、生活のリズムや健康面への影響が大きいことは様々なところで指摘されます。

★「3時間以上ゲームをする割合」：本校は23.4% [全国は29.8%]

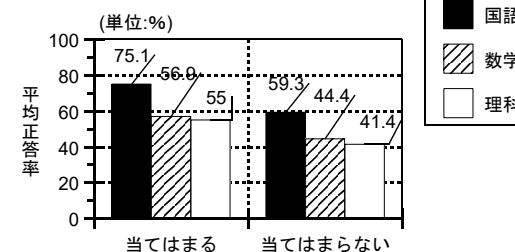
「読書の秋」に家庭でも本に親しんでみませんか？



読書は好きですか？

読書習慣と学力検査結果との相関関係はこれまでの全国学力・学習状況調査結果において、指摘されてきました。映像メディア全盛ですが、活字を通して、考えたり、想像力をふくらましたりすることは、子どもたちにとって大切な学びの機会なのかもしれません。

★「読書が好き」の割合：本校35.0% [全国37.9%・2.9ポイント低]

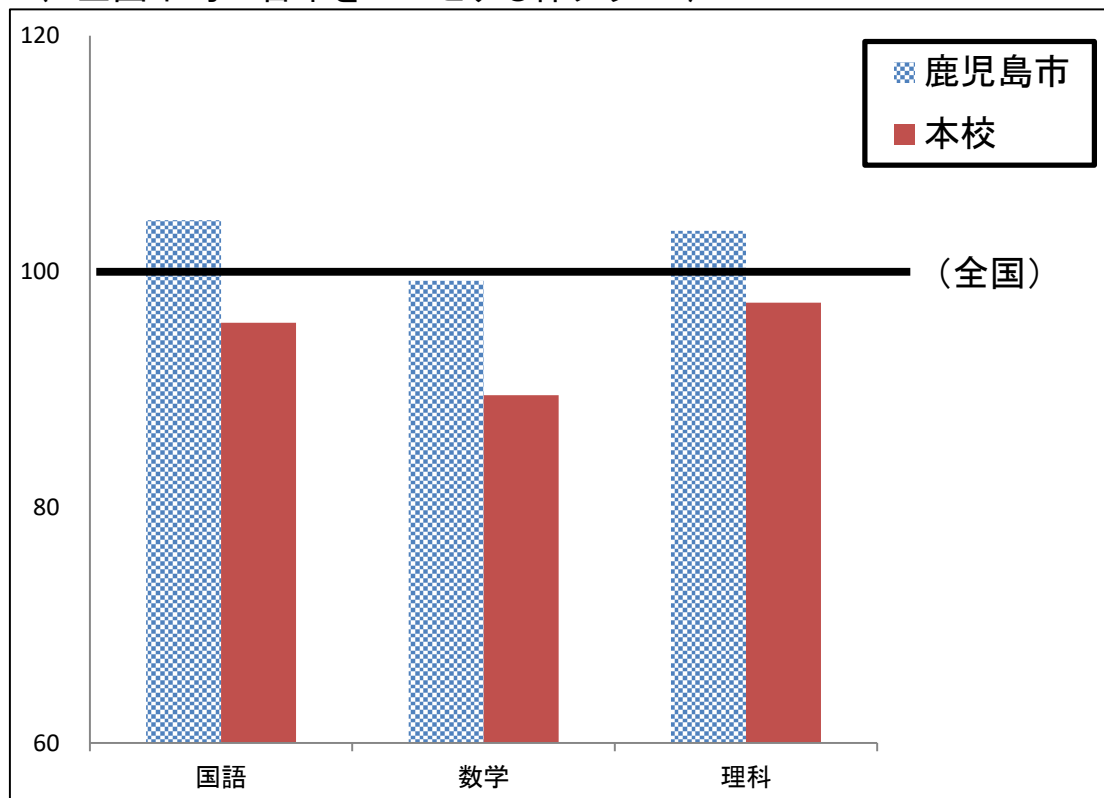


令和4年度全国学力・学習状況調査結果について

紫原中学校

1 自校・市・全国の平均正答率の比較

〈 全国平均正答率を100とする棒グラフ 〉



2 自校の課題に対する改善策

〈国語〉

「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均より高いですが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」は、いずれも低い結果となりました。無解答率が一番高かった、「自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫して話す」という点について、今後は、聞き手に応じた語句の選択や、表現を工夫することの大切さを考えながら、実際に声に出して効果を確認していくなどの課題設定を行っていきます。

〈数学〉

「データの活用」は全国平均より高いですが、「数と式」、「図形」、「関数」は、いずれも低い結果となりました。無解答率が一番高かった「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」という点について、今後は、結論を導くために何が分かればよいかを明らかにし、与えられた条件を数学的に説明できるように整理していく時間を、授業の中で確保していきます。

〈理科〉

「『エネルギー』を柱とする領域」、「『地球』を柱とする領域」の2領域は全国平均より高いですが、「『生命』を柱とする領域」、「『粒子』を柱とする領域」は低い結果となりました。無解答率が一番高かった「考察の妥当性を高めるために、様々な視点から実験の計画を検討して改善できる」という点について、今後は、考察の根拠は明確かなどを検討し、より具体的な例を示しながら、課題に正対した学習場面が設定できるように工夫していきます。

〈全体的に〉

学力調査の結果から、「表現する」、「問題解決の方法を説明する」、「根拠を明確にする」といった趣旨の設問内容に、多くの課題がみられました。これらは、今回の調査に限らず、全教科において授業改善を図っていくための重要課題として捉えていきます。

生徒の質問紙の結果から、本校生徒の将来の希望に対する意識は高く、地域の活動へも積極的に参加している生徒の割合が、全国や県より高いことがわかりました。また、改善を要する点としては、平日2時間以上のテレビゲームやスマートフォン等を使ってのSNS利用が、県平均よりも10%ほど上まわっていることです。家庭学習のあり方も含めて各家庭でも考えていただければと思います。